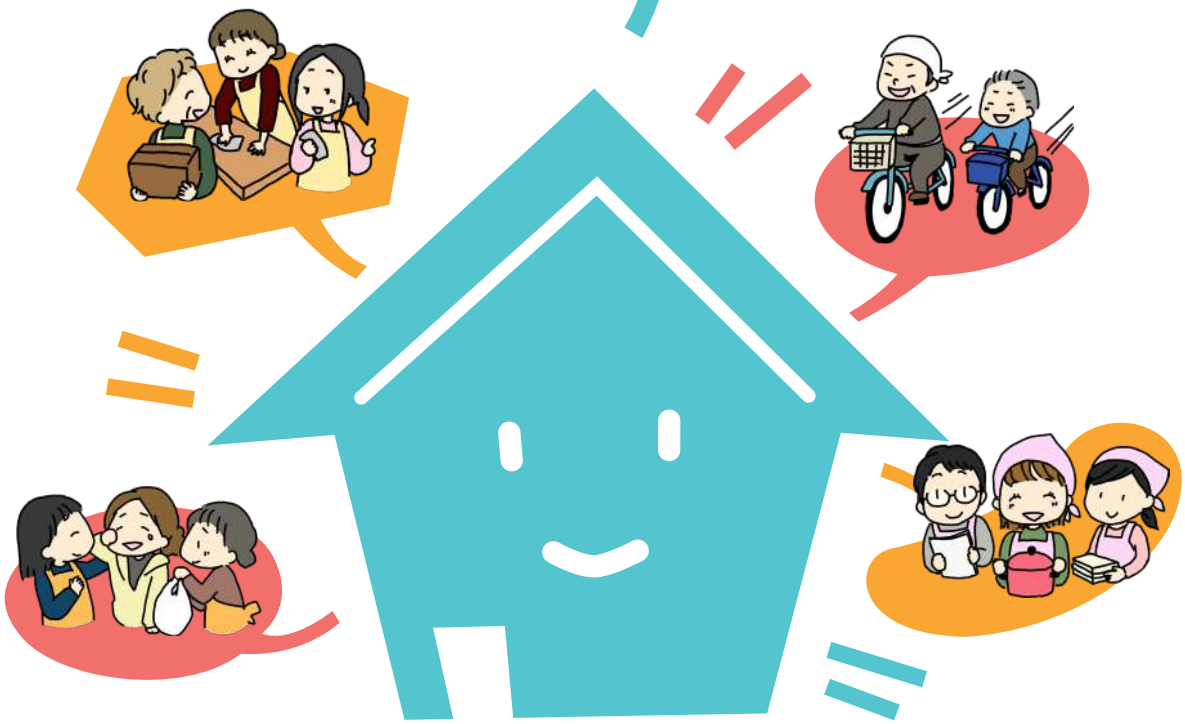
こども食堂エピソードブック

ある日のこども食堂

“ちょっと気になる子”との関わり



編集・発行 NPO法人 全国こども食堂支援センター むすびえ

はじめに

こども食堂の方々は、日々たくさんの子どもやその家族とお会いしていることと思います。その中で、「あれ？この子の様子ちょっと変だな」「この子はおうちでちゃんとご飯食べられているのだろうか」など、”ちょっとしたこと”に気づくことがあるのではないでしょうか。こうした子どもたちやご家族には、多めにご飯を食べさせたり、来なかった時は電話で様子を聞いたり、”ちょっとした支え"をされていることも多いと聞いています。

こうした”ちょっとした支え”は、こども食堂の方々にとっては普段からされていることで、特別なことではないかもしれません。だけど私たちは、こうした”気づき”や”支え”が、こども食堂ならではの大事な役割なのではないか、と感じました。

この冊子は、こども食堂のこうした役割を、実際のこども食堂の方々のお話を基に、事例としてまとめたものです。こども食堂の方々に読んでいただき、「そうそう、こども食堂ってそういうこともあるよね」って思っていただいたり、「そんな取り組みをしているこども食堂もあるんだ」と参考にしていただければ幸いです。

最後になりましたが、この冊子を作成するに当たってご協力いただきましたこども食堂の皆様、文字起こしなどで協力いただいたボランティアスタッフの皆様、資金面でご支援いただいたNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様、そしてこの冊子を手に取ってくださった皆様に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

全国こども食堂支援センター・むすびえ
プロジェクトリーダー
山角 直史

2021年3月

目次
INDEX

2 はじめに
3 目次
4 “ちょっと気になる子”とは？
5 この冊子の使い方
6 メモ・スタッフ紹介

第1章 こども食堂と気になる子との"出会い"
8 事例 01 大雪の日の電話から
12 事例 02 机ガタガタかなたくん
16 事例 03 お母さんも困ってる
20 事例 04 わたしにもできる

第2章 こども食堂の"工夫"
24 事例 05 たかこちゃんシンデレラ計画！
28 事例 06 次はどこに遊びに行こう？
32 事例 07 ママ友として

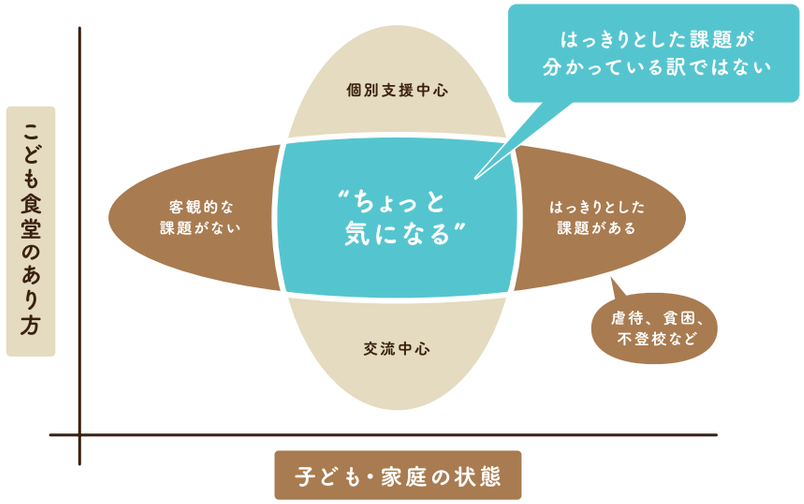
第3章 こども食堂の"暖かさ"
36 事例 08 花柄のテーブルクロス
40 事例 09 「わたし、シングルだってわかる？」
44 事例 10 「困っている子」なおくん

48 こども食堂運営者のみなさんの思い
50 まとめ
51 クレジット

ある日のこども食堂

“ちょっと気になる子”とは？

この冊子で取り上げる”ちょっと気になる子”とはどういう状態の子どものことを指すのか、簡単にご説明します。以下の図をご覧ください。



この図は、こども食堂のあり方をタテにとり、子ども・家庭の状態をヨコにとっています。こども食堂のあり方は、交流を中心としたものから個別支援を中心にしたものまで様々な形があります。その中で、「交流が中心だけど、その中でちょっと気になった子」や、「個別支援でしっかり支えているという訳ではないけれども、何かしらの支えが必要な子」など、交流と個別支援の間の支えを必要とするような“ちょっと気になる子”が今回取り上げるこどもや家庭です。

またヨコ軸を見ると、左に行くほど客観的な課題がない子どもたち、右に行くほどはっきりとした課題がある子どもたちを表しています。右にいる子どもたちは、役所や児童相談所などの支援の対象になります。しかしその手前の”ちょっと気になる”子どもたちには、行政は手を差し伸べることができません。

こうした中間にいる子どもたちへの支えになっているのが、こども食堂ではないかと、私たちは考えています。

この冊子の使い方

この冊子は、こども食堂の運営者の方々に”ちょっと気になる子”と関わった際のお話を伺い、特に印象的だった10の事例をまとめたものです。「こども食堂ってこういうことあるよね！」や、「こういう関わり方もあるんだ！」って思っていただけるものを選ばせていただきました。こども食堂を運営されている方々のご参考になるように、またこども食堂に関心をお持ちの方、やってみたい！と思っている方々がこども食堂について知っていただくきっかけになれるように、作成しています。

事例は大きく3章に分けさせていただきました。1章は「こども食堂と”気になる子”との出会い」、2章は「こども食堂の工夫」、3章は「こども食堂の”暖かさ”」をテーマにしています。私たちが「素敵！」と思った点は各事例の最後にまとめています。最初から読んでいただくもよし、目次をご覧いただき気になるお話から読むもよし、皆様の好きなように読んでいただければ幸いです。

※ 3つの章（テーマ）はあくまで私たちの主観で「素敵！」だと思った所を取り上げさせていただきました。もちろん、どのお話でもこども食堂は気になる子と出会いがあり、様々な工夫をして、暖かく子ども達を受け入れています。

※ この冊子の登場人物は全て仮名であり、一部に脚色を加えている場合があります。

※ こども食堂運営者の方々にヒアリングした際のお話をできるだけ再現するため、呼び方や敬称（さん、くん、ちゃんなど）はお話に出てきたときのままになっています。

本誌スタッフ紹介

Yamakado

やまかど
（山角直史）

このプロジェクトを通じて、たくさんのこども食堂の方々のお話を伺いました。改めて、こども食堂の“賑わい”と“暖かさ”のどっちも大事なんだなって思いました。是非最後まで読んでいただけると嬉しいです。

Ito

いとう
（伊藤由子）

こども食堂の方々の地域の子どもや家族へのあたたかい関わり、細やかな気遣いあふれる素敵なエピソードをたくさん聞かせていただきました。多くの方に知っていただけたら嬉しいです。

Acchan

あっちゃん
（六鹿篤美）

こども食堂の方々と関わり、お話する中で感じた「スゴい！」「素敵！」を、丁寧に言葉にして発信したいという気持ちで、作成してきました。わたしの生きている社会に、こども食堂があってよかったなあ。

Yuasa

ゆあさ
（湯浅誠）

「たいしたことない」「ただのおせっかい」とみなさん言いますが、こんなことしてるんだよ！ということを、多くの人に知ってもらいたくて、作りました。

ボランティアメンバー

大菊健太、小田悠美子、小野寺みゆき、岸野秀昭、小久保真夕、小宮山優樹、坂本竜作、
砂山大輔、土橋柚季乃、福澤涼子、福田開史、日野原辰哉、森本早紀、山口毬乃

他１名のご協力をいただきました。ありがとうございました！

第１章

こども食堂と
気になる子との"出会い"

こども食堂を開いている中で、様々なきっかけで
“ちょっと気になる子”と出会ったお話の中から、
特に印象的な出会いがあったお話をまとめました。

事例 01

大雪の日の電話から

ヨウコさんは東京のある地域でこども食堂を運営されています。こども食堂歴は5年になります。月一開催で、毎回20～30人程度が参加しているそうです。コロナ禍ではフードパントリーを実施して、子どもやご家族を支えています。

今日はある大雪の日の電話から気づきがあった、中学生のだいすけくんのお話を聞かせていただきました。

登場人物

ヨウコさん（運営者）
だいすけくん（中学生）
だいすけくんのお母さん

START!

❶ だいすけくんからの電話

こども食堂を始めてから一年くらいで、大雪で初めてこども食堂を中止にしたことがあったんですよね。会館にも中止の貼り紙をしていて、スタッフもみんな家にいたんです。そしたら、それまでずーっと来ていた中学生の男の子から電話がかかってきましてね。今日はやらないんですかって。

POINT

大雪の中でも
電話をくれた時に、
こども食堂を大事に
思ってくれている子に
気づきました。

❷ だいすけくんのおうちへ

それまで毎回の開催に必死で、あんまりどれだけ求められてるかとか考えたことなかったんですけど、そのとき、あーこんなにも待っててくれてる子がいるんだ～って実感したんですよ。

それだけ大事に思ってくれる子に何かできないかなって、スタッフで相談したんです。そしたらスタッフのひとりがだいすけくんの家の近くだったので、ありあわせのものでおかずを作って、だいすけくんの家まで届けてもらったんです。

POINT

急がずにだいすけくんと
関わり続けたことで、
お母さんにもつながることが
できました。

❸ おうちに行ってみると…

スタッフがだいすけくんのおうちに行ってみると、だいすけくんがひとりで待っていたそうなんです。家族には会えなかったみたいですけど、だいすけくんと話してると、おうちがひとり親家庭だっていうことを話してくれたって聞きました。

大雪の日の電話から

④ お母さんからの連絡

それからもだいすけくんはこども食堂に来てくれたんですが、やっぱりお母さんと話すことはしばらくなかったんです。でもだいすけくんのことが気になったんで、こども食堂が終わったら余った食材をだいすけくんに持たせたり、部活で帰りが遅い時は、食材配付の時間が終わった後でも、だいすけくんの分はとっておいたりするようにしたんです。

半年くらいそういうことを続けていると、こども食堂のフェイスブックにお母さんから、ありがとうございましたってお礼の連絡が入ったんですよ。その時はびっくりしたけど、お母さんにもつながってるんだなぁって思って、嬉しかったですね。

⑤ お母さんの声

また別の日のことなんですけど、地域の方から寄付で毛布をいただいたことがあって、その話をしたらだいすけくんが、お母さんがいるって言うかもしれないって。だからだいすけくんの家に届けに行ったんです。その時に、初めてお母さんと初めて会えたんですよ。

その日から、お母さんとは連絡を取り合うようになったんです。そしてお母さんは、ちょっとずつとお家の事情を私たちに話してくれるようになっていったんですね。

実はだいすけくんは発達障がいがあって、学校でよくトラブルになっちゃうんだ、とか、学校の先生に相談してもなかなか分かってもらえなくて、とか、すごく苦しい思いをしたことを話してくれたんです。

一緒にしゃべっていると、お母さんはだんだん明るくなって。とにかく今まではひとりで頑張ってきたけど、こども食堂で一緒に話を聞いてくれて、気持ちを分かってくれる人と出会えてよかった、って言ってくれたんです。

それからはだいすけくんとお母さん一緒にこども食堂に来たてくれたり、お母さんがひとりで来てくれることもあるんですよ。

⑥ コロナ禍では…

コロナの影響で学校が休校になったときには、こども食堂は中止にしてフードパントリーを開催したんですが、そのときはだいすけくんとお母さんは一緒にフードパントリーに来てくれて、掃除とか荷物運びなんかのお手伝いまでしてくれたんですよ。

学校が休みの間はオンライン学習会を開いたんですけど、だいすけくんはすごい集中して勉強してて、びっくりしましたね。

POINT

コロナウイルスの影響で
こども食堂はできなくても、
つながりは続けました。
それによってだいすけくんや
お母さんの「居場所」が
続けられました。

ここが素敵！

by いとう

雪の日の電話から、こども食堂を待ち望んでいる子がいると感じたヨウコさん。スタッフ同士で何かできないか考え、ご飯をお届けしただいすけくんを思っての細やかな対応がとても素敵です。お母さんとも関わりを重ねて、お母さんが本音を出せる場所になり、親子にとっての大切な居場所になっていったことが分かりました。

事例 02

机ガタガタかなたくん

マミさんは、2015年に地域の公民館でこども食堂をはじめました。

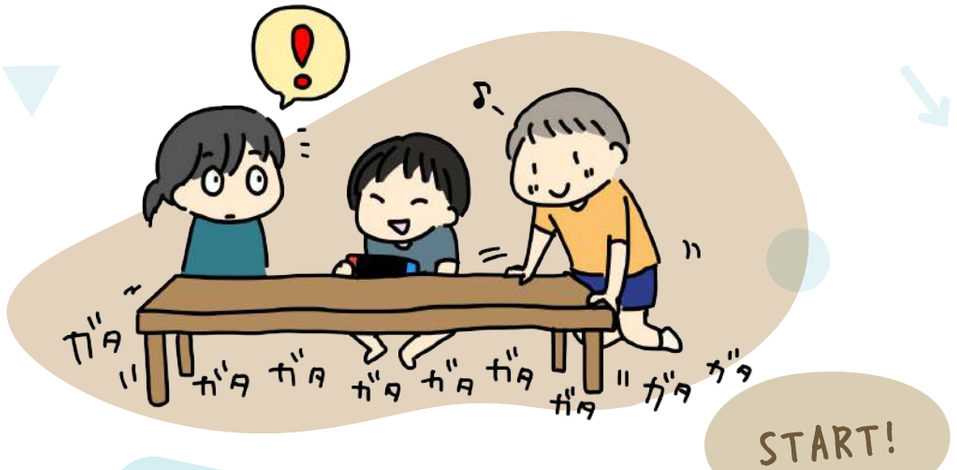
前からこども食堂に来てくれている子が、友達（かなたくん）を連れてきてくれたのですが…、その子がちょっと気になります。今日はマミさんから、こども食堂でのかなたくんとのお話を伺いました。

登場人物

マミさん（運営者）

かなたくん（小学校3年生）

かなたくんのお母さん



❶ 机ガタガタ!?

かなたくんは初めて来たとき、なぜかずっと机をガタガタさせていたのよ。こう、テーブルのヘリを持ってずっとせわしなく揺れてる感じ。面白いのがね、ニコニコして楽しそうなのよね。遊園地行って「わーい楽しい」っていうんじゃないんだけど、「なんかここって楽しい場所だなぁ」とか「よくわからないけどうれしい」っていう表現がガタガタだったんじゃないかな。ちっちゃい子ってじっとしてられないじゃない？あんな感じ。嬉しさの表現が幼いのかもしれないね。

❷ ゲーム！ゲーム！ゲーム!!

それからね、携帯ゲーム機が手放せなくって、ずっとやってるの。ご飯の時もやりながら食べる感じで、なるべく怒りたくないなとは思ってるんで、さすがに「ご飯の時はやめて」って注意し続けたんだけど、ご飯食べ終わったら真っ先にまたゲーム。依存症なのかなってくらい手放せなくて、とにかくゲームにかじりついてる子だったんですね。

❸ ジュースおかわり！

こども食堂の前の時間に、市役所で子ども向けのイベントの日があって、連れてったんだけどね。行きの車でもう「昨日は嬉しくて眠れなかった」っていうんですよ。それくらい普段楽しみがないのかなとかも思ってちょっとびっくりしたね。

そのイベントのスタッフをしていた大学生がうまく子どもたちの意見引き出したりして楽しかったみたい。それで、かなたくん、用意してくれたジュースを10杯以上も飲んだみたいで！

市役所のイベントと
こども食堂を
こんなに楽しみに
してくれるんだって
驚きましたね。

机ガタガタかなたくん

④ かなたくん、緊急事態!?

その後は、こども食堂でご飯食べたんだけど、かなたくんの友達が「かなた、おなか壊してトイレから出てこない」って。

30分くらい声かけたんだけど出てこなくて、結局近所のスタッフにズボンと下着取ってきてもらって着替えさせてね。

その時はまだ親御さんと面識がなくて、「汚れた下着をお家で見せたら怒られるか？」って聞いたら「怒られる」って言うんで、私が庭の水道で洗ってね。かなたくんはそれを黙ってじっと見てましたね。

それで帰らせたんだけど、新しいズボンがあって下着も１枚増えてるんだから、親御さんから何か言ってくるかなって思ったんだけど、その時は結局何も連絡なくってね。

食材や生活用品の寄付があると、かなたくんに持って帰らせていました。

それから数か月して、親御さんとかなた君がうちに来てくれてね、ドア開けたら菓子折り持ってお母さん泣いてるんですよ。

「今まで、うちの子悪さばっかりしてて、どこで何してるのかいつも心配していた。今はマミさんのところに行ってるのがわかって安心してます」って言うんで「私もかなたくんと仲良くなれてうれしいですよ」って話してね。かなたくんもニコニコ嬉しそうにそれを見ててね。

⑤ 小さいけど色んな"楽しい"を経験して

今はもう机をガタガタしなくて、なんとなく穏やかな顔つきになってきててね、他で会うと挨拶がわりに「つぎはいつ？」ってニコニコ寄って来てくれたりね。

そういえばゲームも私の見てるところではやらないくらいになってますね。やっぱり、他の楽しさも覚えてくれたのかなっていうのが嬉しいわね。

ここが素敵！

by あっちゃん

机のガタガタや、「嬉しくて眠れなかった」の言葉、ゲームにかじりつく様子、決して派手な問題行動ではない「あれ？」と思ういくつもの小さな言動から、かなたくんを気にかけるマミさんのアンテナや眼差しがすごく素敵。これこそ、こども食堂の得意な優しい"おせっかい"の視点なんだなぁ。

事例 03

お母さんも困ってる

ヤスエさんは、大阪にある団地の中で2018年からこども食堂を始めました。ちょうど3月頃に、新しく駅前に拠点を構えたところでしたが、コロナが広がり始めたためお弁当配布に切り替えて活動しています。同時に相談窓口も設置していて、役所へのつなぎなどにも取り組まれています。

今日はヤスエさんがこども食堂で出会った、現在小学4年生のだいきくんとお母さんのお話について聞かせていただきました。

登場人物

- ヤスエさん（運営者）
- だいきくん（小学校4年生）
- だいきくんのお母さん

START!

❶ だいきくんとの出会い

だいきくんとは、彼が小学校２年生の時に初めて出会いました。当時は団地の中でこども食堂をやっていたのですが、だいきくんが団地の公園にいて、公園にいたスズメを一人でながめてたんですって。それを見たうちのスタッフのおばちゃんが、「何してるの？こども食堂ご晩飯食べられるけど、来る？」と声をかけたのがきっかけで、こども食堂に来てくれたのが最初の出会いです。

POINT

何気ない出会いから
こども食堂に誘ったことが、
だいきくんとの出会いの
きっかけになりました。

❷ おうちまで送ってみると…

だいきくんは、こども食堂が終わってもなかなか帰ろうとしなかったんです。どうしたのって聞いてみると、帰りたくないって言うんです。だからおうちまで送っていったんですね。

お母さんの話を聞いてみると、「だいきは発達障がいなんです」「私はだいきのせいでうつなんです」と言ってました。お母さんは溜め込んでいたものを吐き出すようにしゃべって、お母さんも孤立してたんだなって分かりました。

POINT

お母さんとも話すことで、
家族には様々な
困りごとがあることが
分かりました。

❸ お母さんとだいきくん

だいきくんはそれから毎週来てくれるようになって、私たちには色んなことを話してくれるんですよ。聞いていると、生活が不規則で不登校状態だったり、食事の時に落ち着きがなくてずっと動き回ってたり。他の子とか大人との距離感がやけに近かったり、時には、死にたいとか、僕なんていない方がいいんだとか言っていて、気になるところがいっぱいありました。

お母さんも困ってる

④ お母さんからも話を聞いてみると…

お母さんは、ご自身の家族環境についても、「私の親も毒親だったから、私も被害者なんだ」って言っていました。だいきくんの不登校についても、お母さんも深夜にゲームをするような生活をしていて、登校の時間になってもだいきくんを起こすことができない状態みたいで。お母さん自身も、困りごとを抱えているんだなって思ったんです。

⑤ 親子へのサポート

私たちはだいきくんをサポートしながら、同時にお母さんの持っている力も引き出せるよう心がけたんです。だいきくんが朝起きれるようにスタッフがおうちを訪問したり、だいきくんがどうしても家に帰れない日はスタッフの自宅に泊まっていってもらったりもしたんです。お母さんにも、パソコンが得意だったので、PTAの仕事をやってもらうことで、お母さんも何かしらに参加してもらえるようにしたんです。

POINT

朝の声かけや
PTAでの役割など、
ちょっとした関わりを
続けました。

⑥ それから…

でも今までのところ、思っていた通りにはなっていません。だいきくんのお母さんは、最初は積極的にやってくれてましたが、プレッシャーを感じちゃったのかPTA活動への参加を止めてしまいました。お母さんは「こども食堂には関わりたくない」「私の悪口を言っているんだ」っていうことも言って、だいきくんがこども食堂に通うことも禁止するようになってしまいました。こうした状況は学校や役所の担当の方にも伝えています。

だいきくん自身は、お母さんのこともこども食堂のことも好きなので、通うことを禁止されて混乱していました。本人の中で考えていること、気づき始めていることもあるようです。今は、これからどういった関わり方ができるか模索しているところです。

POINT

いつも上手くいく
わけではありませんでしたが、
関わりを
続けています。

ここが素敵！

by やまかど

公園でスズメを眺めていたところに声をかけてこども食堂に来るようになったというお話は、本当にこども食堂ならではだなって思いました！だいきくんだけじゃなくて、お母さんも困ってることがあるんじゃないかっていう気づきも、本当に大事な視点です。

事例 04

わたしにもできる

ミカコさんは、地域でこども食堂を始めて3年になります。こども食堂は週に3回開催し、様々な子が来ています。

今日はミカコさんから、こども食堂で出会ったちょっと気になる、ある女の子とそのママとの関わりについてお話を伺いました。

登場人物

ミカコさん（運営者）

みさきちゃん（小学校4年生の女の子）

みさきちゃんのママ

START!

① みさきちゃん、はじめまして！

みさきちゃんが初めて来たときは、こども食堂を知らない状態なもんで「ご飯食べて帰ったら怒られるかもしれないから、食べない」と言ったので、「ママに一回聞いておいで」って帰らしてね。別の日に来た時はコンビニの三角おにぎり一個だけ持ってきたから、「足りないおかずとか食べなさいね」って言って。

② みさきちゃんママ

その次からはママも一緒に来るようになりました。

本当に子どものこと想ってらっしゃるんだけど、ちょっと言葉使いが荒いというか、きついというかそんなママさんでしたね。

こども食堂に来たときは、パートで疲れて帰ってきても、こども食堂であたたかいご飯を子どもと一緒に食べられたりして、心が和らいだというか、ママにとっても嬉しい場所になったと思うんです。今は、料理のお手伝いに来てくれたり、ここに来てる子たちに話題を提供して楽しませてくれたりするようになったんです。

③ 仲間に入れない

みさきちゃん、友達と一緒には来るんだけど、遊びの輪に入り切れないときがあって、表情のない顔でひとりボーっと遠くから見てる感じで。

仲間外れにされてるわけではないんだけど、トランプで「この次のゲームから、みさきちゃんも入れてあげてね」とか声掛けしたりすると、ゲームしてる子たちは「いいよ良いよ！はいりー！」って。でも、みさきちゃんは「このゲームわかるかな？一緒にやれるかな」って不安いっぱいって表情だったかな。とにかく自分に自信がないってところをすごく感じましたね。

事例 04

わたしにもできる

④ わたしにもできる

でも１年くらい前から自分に自信が出てきたのかな、遊んでる他の子とも普通にしゃべれるようになったのよね。いろんな子と話したり、新しいゲームも子ども同士で教えあって一緒に遊んだり、地域のスポーツ大会のリレーの代表に選ばれたりだとかもしてね！そういうちょっとしたことの積み重ねで、少しずつみさきちゃんも自信が出てきたんだと思うんですね。

今はこども食堂の学習会にも通っていて、学年末のテストもすごく頑張っていました。

自信がついた
みさきちゃん。
大丈夫、なんだって
できるよ！

ここが素敵！

by あっちゃん

「わからない」「できない」で不安いっぱいのみさきちゃんを何度も遊びの輪に入れた運営者さんのフォローがあって、その１回１回の「できた」がみさきちゃんの自信になっていったはず。きっとママも同じように、ここで沢山の経験をして、気持ちにゆとりができたんでしょうね。

第２章

こども食堂の"工夫"

“ちょっと気になる子”と出会った後、
どのようなかかわりをされてきたのか、
運営者さんの”ちょっと気になる子”との
かかわり方の工夫をご紹介します。

事例 05

たかこちゃんシンデレラ計画！

マイコさんは、週に１回開催しているこども食堂の代表を務めています。こども食堂はコロナ前からやっていましたが、学校の一斉休校の後は時間差を設けて密を避けながら開催したり、お弁当配布を実施していました。

今日は、教育センターからの紹介で出会った、高校生のたかこちゃんとのお話を聞かせていただきました。

登場人物

マイコさん（運営者）

たかこちゃん（高校生）

START!

❶ 教育センターからの電話

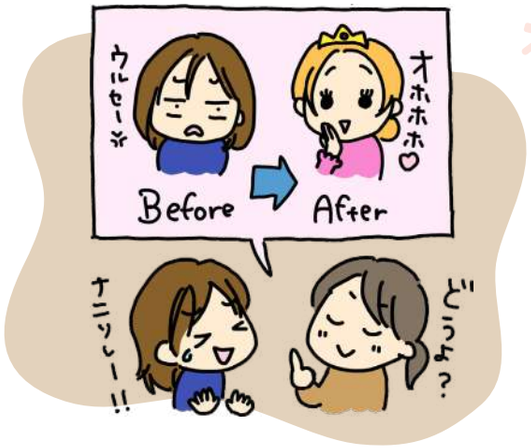
私たちは毎週土曜日にこども食堂をやってるんですけど、去年の夏頃市の教育センターから電話がきたんですよ。ある高校生の女の子が、お母さんが入退院を繰り返しているシングルファミリーで、家では十分にご飯を食べられていないようなので、週に１回温かいご飯を食べさせてくれませんかって。私言ったんですけど、お門違いですよって。高校生だったらお客さんじゃなくてボランティアとして誘ってみたらどうですかって。そしたら誘ってみますって言われて、次のこども食堂の日にその子来たんです。

POINT

きつい言葉遣いで周りを困らせてしまったことを聞きました。

❷「学校、つまんねーし」

その子はたかこちゃんっていうんだけど、高校生だから小学生中学生の中でただ食べてると、逆に浮いちゃうかなって思って、働いてもらうようにしたんです。そうして来てもらっていたら、たかこちゃんと一緒の席で食べていた方から、たかこちゃんの言葉遣いが悪くて、今日のこども食堂は楽しくなかったって言われたの。たかこちゃんは、「学校つまらねーし、進路なんかねーし、行きたくねーし。」って言ってたんですって。



POINT

ネガティブな行動や言葉にも、ポジティブな言葉に変えて話しました。

❸ シンデレラ計画？？

それでね、本人に汚い言葉はやめてって言うのも、学校に連絡したりするのも、本人にはネガティブになっちゃうなって思って、どうやってプラスに変えてもらえないかなって考えたんですよ。それで３回目に来てくれた時に、ちょっと別室に呼んで、二人で話したんですよね。そこでね、「たかこちゃんシンデレラ計画っていうの考えたんだけど、やってみない？」って言ってみたの。そしたらたかこちゃんがなにそれ～ってゲラゲラ笑ってくれてね～。

④ たかこちゃんもきれいになれる

たかこちゃんには、「たかこちゃんはじゃがいもで、まだ土ついているんだよ。土落としたら、汚い言葉もなくなるし、もっときれいになる。」って話したら、もっと笑ってくれて。何をしたかっていうと、うちのスタッフで素敵な方がいるから、たかこちゃんはこども食堂ではひとりで動かないでその人と一緒に動くようにしてもらって、たかこちゃんがもし汚い言葉を使ったら、お尻をぽんぽんってするようにしたんです。

⑤ ちょっとずつ変わっていくたかこちゃん

そしたら、しばらくはやっぱり汚い言葉も使うことも多くって、そのたびにお尻をぽんぽんってしたんですけど、しばらくしたら変わりましたね〜。ものすごい変わったの。まず汚い言葉やマイナスな言葉を使わなくなる。服やアクセサリーを持ってきてプレゼントしてくれたりすることもあった。

たかこちゃんにはシンデレラ計画をマイナスな気持ちでやってほしくなかったの。だからお尻をぽんぽんってするのは、これから自分がきれいになるんだって思ってほしくて。ダメなことはダメだよってはっきり言うようにしてたんだけど、たかこちゃんは１年間欠かさずこども食堂来てくれたのよ。

POINT

たかこちゃんにとって、こども食堂のスタッフなどの大人がモデルになっていました。

⑥ 介護の仕事がしたい！

ある日、隣の市の専門学校から保育の先生が研修で来てくれた日があったんです。たかこちゃんも何か先生から感じてほしいなって思って、その日はその先生についていくように言ったんですね。そしたらたかこちゃんは色々感じることがあったみたいで、今までは進路なんてねえよ！って言ってたのに、その先生がいる専門学校に進路を決めて、今では高齢者の介護の仕事がしたいって言って専門学校に通ってるんです。

⑦ 話していくうちに分かったこと

そうやって話していると、たかこちゃんには、実はお姉ちゃんがいてお母さんと女３人家族なんだけど、お母さんがあまり家事ができないからたかこちゃんが全部家事をやっているって聞いてね。それからは、たかこちゃんにはこども食堂でいっぱい食べてもらって、たくさん食材も持って行ってもらって、この材料はこうやって使うとおいしいよとかって話してるんです。

ここが素敵！

by やまかど

たかこちゃんが一緒にいた人とぶつかってしまった時、マイコさんは参加者とたかこちゃんのどちらも大切にしたいって思われたからこそ、たかこちゃんと向き合って、「シンデレラ計画」っていう素敵なアイデアを考えられたんだと思います。たかこちゃんと楽しみながら一緒に素敵な人を目指したマイコさんに感動しました！

事例 06

次はどこに遊びに行こう

シンヤさんは、平日の朝ごはんと週3回の夜ご飯時に、こども食堂を開催しています。

今日はシンヤさんから、こども食堂で出会った、当時小学3年生のりょーたくんとのお話を伺いました。

登場人物

シンヤさん（運営者）

りょーたくん（小学3年生）

❶ 近所の気になる泣き声

19時半にこども食堂が終わって子どもたちを家に送って行ってるとき、ある家の前を通ると、小学生くらいの男の子がいつも尋常じゃない泣き方をしてるんですよ。

それでずっと、すごい気になってたんですよね。

❷ りょーた、こども食堂へやってくる

りょーたは、当時完全に不登校でした。学校の担任の先生が、スクールソーシャルワーカーの先生に相談して、近くにこども食堂あるよってことで、紹介してもらって、来るようになったんですね。

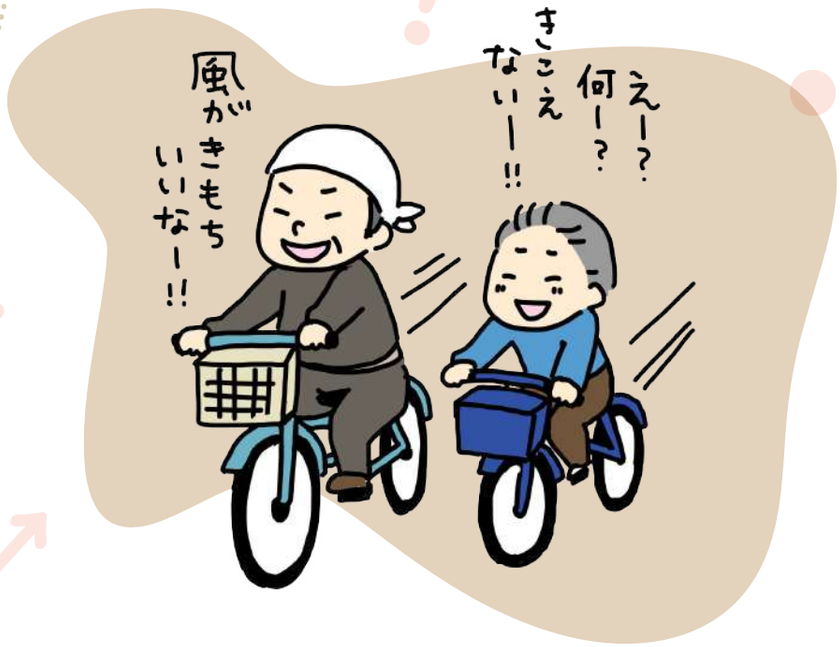
❸ 図書館できたんだってよ！行ってみようぜ

りょーたが、うちの食堂に食べに来るようになって、朝食もやってるよってところで、朝もご飯食べに来るようになったんです。

わたしがこう、"叱るより喧嘩"みたいな、一緒になって言い合いするみたいな感じで接するタイプなので、打ち解けるまでそんなに時間はかからなかったかな（笑）。

毎日顔を合わせて、自転車乗ってサイクリング行こうよとか、図書館ができたから行ってみようよとか、児童館で卓球やバトミントン、公園でサッカーやキャッチボールなんかもしたかな。表に出るのがすごい好きな子なので、ちょいちょいあちこち行ったりとかしましたね。

そんなところで絆を深めていったというか、それでちょっと変わってきたかな。



次はどこに遊びに行こう

④「俺、去年の今頃は、不登校だったんだよな」

それで朝、こども食堂でのご飯の後は、みんな学校まで送って行ってるのもあって、自然と学校に行けるようになったんですね。ついこの間、「去年の今頃は、俺は不登校だったんだよな」って自分で言えたんだよね。不登校だったのが、本人の中でもう過去のことになっていて、すごい進歩したなって思ったのがありますね。

POINT

こども食堂でたくさんの
経験を共有し、
不登校を自分の中で、
過去のものとして
消化できた。

⑤ 泣き声の理由

夜、なんで泣いてたのかっていうのは今もわからない。

ただ、母子家庭で、6年生のお姉ちゃんがいるんだけど、お母さんとお姉ちゃんが、何かちょっと気に入らないことがあると、もうものすごい責め立てるんですよ、りょーたを。

前にりょーたをお家に送っていったときも、そういうことがあって、りょーたは電柱の陰に隠れて頭もくっつけて、ずぅっと動かない状態で隠れてるんですよ。

お家での居場所が少ないのかなあって思ってましたね。

今はもう、うち（こども食堂）でものびのびして、おれの悪口行ったりとか（笑）からかってくるようになってくれたんで、うちに来て少しはいい方向に行ってくれたのかなあなんて。

いろんなところに行って、こども食堂でいろんな人に会って、見てきて、りょーたはりょーたで大丈夫なんだって、自分に余裕が出たんじゃないかな。

ここが素敵！

by あっちゃん

不登校の子が、学校に行けるようになったって、結果もすごいんですが、朝一緒にご飯を食べたり、ちょっと遠く自転車で一緒に出かけてみたり時には一緒になって言い合いをしたり、こういうこども食堂での日常一つ一つを大切に積み重ねながら関係を構築していった結果、不登校が本人の中で過去のものになっていった過程がすごくあたたかいです。

事例 07

ママ友として

カズコさんは子育て支援を大事にしたこども食堂を運営されています。近くに児童発達支援施設があって、その施設から帰るお子さんがよくいらっしゃるそうです。

今日は5歳の娘さんがいるお母さんと出会ったお話を聞かせていただきました。

登場人物

カズコさん（運営者）

お母さん（5歳の娘さんがいる）

START!

❶ アンケートで大変と答えたお母さん

うちのこども食堂はコロナになってから、こども食堂は中止してフードパントリーをやってお弁当を渡すようにしたんです。パントリーをやるのは初めてだったんで、利用者アンケートをとらせてもらったんですよ。その時に5歳の娘さんと一緒に来ていたお母さんは、今の困り度がすごい高いって答えてたんですよ。ひとり親家庭のお母さんだし、コロナで仕事も休めって言われていてすごく不安だって言っていたから、気にしていたんです。

POINT

アンケートの結果から気になっていて、気にかけていました。

❷ こども食堂仲間で見守る

うちの市では、毎月のフードパントリーの申込は一斉合同で行うので、今月どなたがどこのパントリーに申し込まれているかは各食堂責任者だけにわかります。とても気になる方がその月に自分のところに申し込んでいないときでも、別の食堂のパントリーに申し込んでいることがわかると、ほっとします。私のところの人、でなくて、みんなで見守る人、になっています。

POINT

同じ市のこども食堂同士で連携して、気になる方を見守っていました。

❸「ほかの困ってる方に渡してください」

その仕組みのおかげで、そのお母さんは今年3月に他のパントリーに来てたことが分かって、5月にはうちのパントリーに来たの。でも6月は来なかったから、私から「今回はいいですか？」ってきいたんです。そしたらお母さん、「いいんですか？」「私は前にもらったので、今回はほかの困ってる方に渡してください。」っておっしゃったんです。ご自分もすごく困ってるはずなのに、他の方を気遣うのって、魂が素敵だなって思って、この人は絶対守ろうって思ったの。

事例 07

ママ友として

④ お母さんへ電話

その電話で、私は「たくさんあるので大丈夫ですよ、ぜひ来てください」ってお伝えしたんです。お子さんが障がいもあって、ひとり親家庭でもあって、子育てが大変そうだったのは分かっていたので、私たちが人として支えたいなって感じて。私自身も子どもがいるんですけど、ママ友として仲良くしようっていうイメージで接しています。

POINT

お母さんに
「してあげる」関係ではなく、
友達のような関係を
目指しました。

ここが素敵！

by いとう

サポートの視点をもちつつ、お母さんと同じ目線でママ友のように関わる対応がとても素敵だと思いました。だからこそお母さんにとってもカズコさんが大事な繋がりになっていったのですね。こども食堂同士の連携で気になる方を見守る仕組みも素敵です！

第3章

こども食堂の"暖かさ"

じっくり時間をかけて
子どもやお母さんと関係をつくっていく過程や、
そのなかで出会った
心あたたまるエピソードをまとめました。

事例 08

花柄のテーブルクロス

カズヒロさんは、3年前、近所のご夫婦とこども食堂を始めました。2020年5月ごろからは、会場だった公共施設がコロナウイルスの影響で利用できなくなり、個人の家でのこども食堂をつづけました。カズヒロさんは、3年くらい前からこども食堂に来ていたある姉妹を、ずっと心配で気にかけていました。

今日は、カズヒロさんから、その姉妹とそのご家族とのお話を伺いました。

登場人物

カズヒロさん（運営者）

姉妹（小2の女の子、小1の女の子、4歳の男の子）

姉妹のお母さん

START!

❶ 気になる姉妹

こども食堂に来ている子たちの中に、前からちょっと気になってた姉妹がいてね、PTAのお母さんたちが、その子たち、ちゃんと食べさせてもらえてないんじゃないかって。でも、あくまで聞いた噂をそのまま受け取るのもなあって思って、こっちからいろいろ言うことができなかったのね。

そういう、気になるけど詳しい事情は聞き出せないって状況が2年ぐらいあってね。注意深く、でもまずは楽しくと、やってきました。

❷ ある日…

お母さんから、子ども3人を連れて家出をしてきたって連絡が来て「お父ちゃんが、毎晩朝まで酔っ払って、わけわかんなくなってて、子どもたちを叩いたりしてる」と。「もう嫌だから出てきた」と。

とにかく私のところにお母ちゃんと子どもたちを泊めて。

すぐに、市の子育て相談室のヨシダ君っていう若いのが頑張ってるから、そこに連絡したら虐待の心配もしなきゃいけないってことで、警察やら児童相談所やらと連絡を取ってくれてね。

1年2年…と、もどかしくも日々のお付き合いがあって、こういう「きっかけ」があったときはじめて、「あそこのおじちゃんたちにだったら」っていうように思ってくれたんでしょうね。

❸ 1週間の避難生活

2、3日して、お父さんとの調整を始めたんだけど、隣の県からお母さんの両親にも来ていただいて話し合いをしてもらったりして。

何とかね「絶対に手を上げない」と、それから「お酒をやめる」というふうな約束をして、お家に戻って生活できるようになったわけ。結局、うちには4日間、実家にも行って、合計1か月近く避難生活だったね。

花柄のテーブルクロス

④ やさしい“おせっかい”

おうちに戻すとき、おうちの片付けも一緒にやってね、もう足の踏み場もない状況だったから。

それからテーブルも男たちで手作りして運び込んで、「このテーブルだけはキレイにしておいて、物を置かないようにするんだよ」なんて言って。

テーブルと椅子を運んで、そういうお手伝いをしながら色々話をして、おうちにも入れるような関係になってね。

⑤ 花柄のテーブルクロス

そしたらね面白かったのは、テーブルを作って、可愛いカバーをかけてキレイにしといたらね、お母さんが「こどもらが学校から帰ってきた途端に自分たちで宿題を開いて、3人が3人とも宿題を始めた」「こんなのは初めて」って言うんですよね。

期待はしてたものの、本当にそうなるのは嬉しかったね。

お母さんも喜んでたしね。

⑥ 長い時間、たくさんの日々の積み重ねが…

こども食堂でね、何となく気になって、でもはっきりしなくて、そのまま流れてるような付き合いであっても、1年2年とするうちに、何かあったときに、役に立つことができるのかなって、この時初めて思いましたね。

月に1～2回でも、こども食堂でお付き合いがあるっていうことはそういう意味ですごく大事なことかなあと、思ってます。

ここが素敵！

by いとう

時間をかけて関係性を丁寧に築いていったカズヒロさんのあたたかいお人柄を感じました。だからこそ緊急時に顔が浮かぶ存在になっていたのですね。花柄のテーブルクロスのテーブルを子どもたちもお母さんも喜んでいる様子が目に浮かびました。

事例 09

わたし、シングルだって分かる？

ヤスコさんは、東京都のある地域で、3年ほど前に自宅でこども食堂を立ち上げました。今は公共施設を借りて、毎月2回実施しています。新型コロナウイスの影響でこども食堂ができなくなったため、自宅でのフードパントリーに切り替えて活動されています。

今日はヤスコさんから、1年前に出会った小学5年生のくみちゃんと3年生のこうたくん、その2人のお母さんとのお話を伺いました。

登場人物

- ヤスコさん（運営者）
- くみちゃん（小学生・姉）
- こうたくん（小学生・弟）
- 2人のお母さん

START!

❶ 地域のお祭りでの出会い

くみちゃんとこうたくんと初めて会ったのは、地域の夏のイベントで、2人がミニコンサートに出演してた時なんですよね。ステージが終わった後にお母さんとちょっと話すことがあって、うちのこども食堂を紹介したんです。

くみちゃんとこうたくんの家がシングルだってことは、実は人づてで聞いてたんだけど、本人からは直接聞かないでいたの。たまにこども食堂に来ないこともあったあから、その時はどうしたのって電話したこともありましたね。

POINT

こども食堂に来なかった時に電話で連絡をとり、気にかけていました。

❷「シングルだって、分かる？」

お母さんはしゃべりたいことがいっぱいあったみたいだから、しばらくは話を聞くことに徹底してたの。それから2、3か月したころだったかな、お母さんが私に、「シングルだって分かる？」って言ってくれたの。私は、「分かるよ」って言ったの。お母さんは「やっぱり分かります？」って笑いながら言ってたんだけど、わたしは「気にしなくていいのよ、色んな人が来てるんだから。シングルの人だっていっぱいいるから」って話をしたの。

POINT

少しずつ信頼関係を積み重ね、悩みを話してくれました。

❸ 話を聞いていくと…

シングルだってことを言ってくれてから、一線を越えたのか、毎回来てくれるようになって、積極的に話しかけてくれるようになったの。うちのこども食堂は参加人数も多いから、毎回同じスタッフがお話できる訳じゃないんだけど、スタッフの間ではこのご家庭のことは共有しておいたのね。お母さんはそんなにおしゃべりな方ではないんだけど、話を聞いてると、少しずついろんな話をしてくれたのよ。

④ 学校のこと…

話をたくさん聞くようになって、くみちゃんとこうたくんの学校のことになってね、実はふたりとも学校に行けてなかったんだって。こども食堂ではふたりとも大人しい様子だったし、全然わからなかった。でもコロナの影響で一回学校が休みになって再開してからは、ちょくちょく行けてるみたい。何でかは詳しく知らないけど、よかったねって話したのよ。

POINT

くみちゃんの
勉強会での様子も見ていて、
気に留めていました。

⑤ 実は勉強会にも来ていた

そういえば、うちのこども食堂はコロナになる前は、こども食堂の前に勉強会をやってて、くみちゃんも来てたのよね。勉強会では、スタッフが子どもたちに勉強を教えてたんだけど、くみちゃんがやけに男性のスタッフを独占しようとしてね。これはどうしようかなって思ってたときにコロナの影響で勉強会ができなくなっちゃって、勉強会はできなくなってったんだけど、くみちゃんのことは気になってたんだよね。

⑥ コロナ禍のフードパントリーにて

コロナの影響でこども食堂ができなくなってからはフードパントリーに切り替えてやってたんですけど、くみちゃんとこうたくんは来なくてお母さんが1人で取りにきてるんですよね。お母さん、ぐったり疲れてる時もあるし、時間に間に合わないって連絡が入ることもあるの。コロナ禍で仕事も大変だろうし、これからもつながりは続けて、見守っていきたいなって思っています。

POINT

フードパントリーに
なっても関係は続き、
くみちゃんとこうたくんの
家庭の支えになりました。

ここが素敵！

by やまかど

ヤスコさんがお母さんを温かく受け入れて、少しずつ心の距離が近くなっていったからこそ、「わたし、シングルだってわかる？」って言ってくれたのかなってと思うと、本当に素敵な関係だと思います。コロナ禍での活動の様子も見学させていただきましたが、ヤスコさんが皆さんに愛されているなっていうことを肌で感じて、本当にあったかいこども食堂です！

事例 10

「困っている子」なおくん

ハルさんは、地域でこども食堂を月に１回開催しています。近くの大学の学生が、毎回手伝いに来てくれています。

今日は、ハルさんから、こども食堂で出会った小学３年生の男の子、なおくんとお母さんのお話を伺いました。

登場人物

ハルさん（運営者）

なおくん（小学３年生）

なおくんのお母さん

START!

❶ かみつき なおくん

ある日、学生スタッフさんから「なおくんのことなんですけど…、ぼくがなおくんから離れて、ほかの子と遊んでいると、ぼくに噛みついてきたりするんで、やめさせたいんですけど」って相談があったの。なおくん、もともと動きが激しくて、お友達との距離の取り方が難しい子だなーって思ってたんですけどね。

今日はこのお兄ちゃん！って決めると、もう構ってほしくて仕方ないんですよね。

その話の後、お兄さんに噛みついたりしたときは、わいわいした所じゃなくて、荷物置く小部屋があるんだけど、そこに行ってお話をすることにしたの。「なおくんの気持ちわかるよ。でも、今は、○○だから遊べないんだ」「あと○分待っててくれたら遊ぼうね」って。そうやって向き合ったら、彼はそれで納得できて、かみつき行動もおさまったのよ。

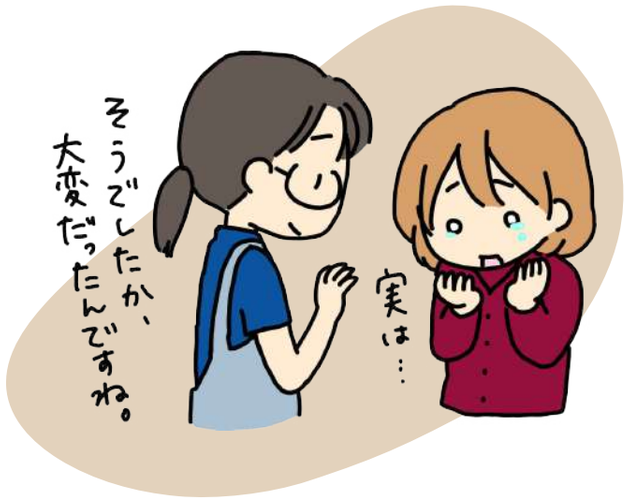
❷ お母さん、もしかしてお家で困ってることないですか

これは、お母さんと話をしないといけないなーと思って、なおくんのお迎えにお母さんが来たときにお話ししたんだよね。

「なおくん、こんなことがあったんですけど、こういう風にお話したらわかってくれました。お母さん、もしかしてなおくんのことでお家で困ってることないですか？」って。

お母さんは、いつも車で来て、なおくんをこども食堂へ置いて、お母さん自身は食堂に入らないの。送り迎えだけだったの。

そうしたら、お母さんぽろぽろぽろぽろ涙こぼしながら、「自分もどうしていいか分からないところだった」んだって。



なおくんこういう感じだから、どこにも行き場所がなくて、習い事に入れてみても、すぐ『ちょっと困るんで…』って言われちゃって。

❸ お母さんとなおくん、ふたりぼっち

お母さんにしてみれば、どこに行っても居心地が悪い。なおくんにとっても、きっと居心地悪かったんだと思うんだよね。自分を理解してもらえない場所にいるのは。

「困っている子」なおくん

④「困った子」なんていない、いるのは「困っている子」!

お友達の中で、人との距離がうまく取れない、トラブルになっちゃう子って必ずいるのよね。

彼らは「困った子」じゃないのよ、彼らは「困っている子」なのよね。「この子は何に困ってるのかなー」って考えるのよ。その困りごとに耳を傾けてあげれば、その困りごとさえ解決すれば、周りの子とも仲良くできて、まったく「困らない」のよね。

POINT

子どもの言葉にならない「困っている」に耳を傾け、そのままを受け止める。

⑤ なおくんの「困りごと」

なおくんも、とにかくお兄さんお姉さんが大好きで、遊びたくて「ほかの子にとられる」「もう自分とはあそんでもらえない」と思っちゃうことが怖かったのね。見通しが欲しいっていうか、少し待ってたらまた遊んでもらえるってわかったら、気持ちが落ち着いたのね。

⑥ いつでも帰ってこられる場所

実はここ最近は、なおくんの顔、あんまり見てないのよ。

なおくん、地元の子じゃなくて、車で来ないといけないところから来てて、多分お母さんすごい探してたんだよね、居場所を。

いまはきっと、ここに来なくても、楽に息ができるようになったんじゃないかな。いつ来ても受け止めてもらえる場所があるって分かってるからこそ、来なくても大丈夫なんじゃないかな。

ここが素敵！

by あっちゃん

今回のヒアリングでも「お母さん」の登場回数の多いこと！お母さんたちの「子育て」や「孤立」を受け止める場所として、こども食堂が果たす役割の大きさを改めて感じました。噛みつき自体を叱るのではなく、なおくんの気持ちを受け止めつつ対応された、“そのままを受け止める”ハルさんの姿勢が素敵です。

今回お話を聞かせてくれた

こども食堂運営者のみなさんの思い

バラエティクラブ八王子

廣田　晶子

子どもだけでなく、一人暮らし高齢者など色んな方の居場所になっている。

秋田たすけあいネットあゆむ

保坂　ひろみ

こども食堂で出会った子どもや家庭に地域でサポートできる全体の仕組みを作っていきたい。

こどもの居場所作り@府中

南澤　かおり

顔を合わせる、繋がり続けることは、何か一歩進んだ関わりをするときに大切。

フードバンク北九州ライフアゲイン

原田　昌樹

子ども食堂が地域の大きな家族になれば、きっと小さなSOSの声も聴こえる。

寺子屋方丈舎

江川　和弥

ご家族の方とは、お迎えのときに話をするようにしています。

チャイルドケアセンター

大谷　清美

子どもから学ぶ、気づくこともたくさんある。

wakka（わっか食堂）

石川　哲也

子どもの将来を一緒に考え、必要であれば一緒に役所や病院に行っています。

石川こども食堂

新奥　匠

こども食堂は、おいしく、楽しく、心と体を育てる食事の場にしている。

くすのき子ども食堂実行委員会

田所　桂子

子どもも大人も来てくれる人の心が和む場所でありたい。

東吉野村こども食堂

福井　茉莉子

広く、多くの人数と接するけど、1人1人との時間も大切にする。

こどもプロジェクト

福田　恵美

こども食堂をしていると、もっと困っている子がいるかもと思う。

おのみなとこども食堂の会

岡　定紀

民間の限界も感じる一方で、こども食堂だからできることもある。

ヨリドコピンポン

津守佳代子

一緒に調理したり、イベントも子ども発信のものを実現できるように動く。

TSUGAnoわこども食堂

田中照美

来てくれたままの姿を受け止める。それがこども食堂の場だと思っている。

よこすかなかながや

和田信一

3年半活動してきて、何かあったときに「この人なら」っていうのは、うれしいね。

みんなの食堂国府中

藤田潮

人として、友達として、どこまで寄り添えるか。

あーぶくたった・くれかきっちん（あそびとまなび研究所）

秋葉祐三子

世間話からそれぞれのお家のことが見えてきて、そっと関わり続けられる場所。

ころころ食堂

西塚美津子

しゃべるのが苦手な子が挨拶してくれたら、よく言えたねってほめる。

労協ながの

廣瀬唱一

子どもたちと出会う場であり、こども食堂同士が他機関と横で繋がるプラットフォーム。

dattochi みんなの食堂

福澤恵子

どんな人にも来てほしい。みんなで良くなっていけばいい。

おやこ食堂「おかえり」・みんなの食堂「ただいま」

齊藤恵子

子どもたちが「行きたい！」って思いついたら来られるように用意している。

ハッピーコミュニティ食堂

西本良行

何を、どれくらい食べたいか、時間はかかっても、コミュニケーションを取りながら配膳する。

チアーズ

本間香

地域のおばちゃんが頼れるんだと思ってくれれば。

放課後キッチン・ごろごろ

石田　裕子

子どもたちあんまり褒められる経験がないので、小さいことでもほめるように声掛けしてます。

すくすく広場

戸恒和夫

形、場所が無くても、つながり続けることがこども食堂。

西東京わいわいクッキング

岸田　久恵

子どもたちと一緒に作る食事、学び、遊びの場であり、関係を積み重ねていく地域の居場所。

まとめ

今回のプロジェクトでは多くのこども食堂の方にご協力をいただき、たくさんのエピソードを聞かせていただきました。どのお話でも共通して素敵だなあ…！と思ったのは、皆さんが目の前にいる子どもたちやお母さんを心から大切に思っていること、そしてその想いが体現された「関わり」でした。

食堂開催日は、たくさんの人数分の食事を準備したり、子どもたちが入れ替わり立ち替わり参加をして、あっという間の嵐のようです、というお話をよく伺います。その日運営するだけでもとっても忙しいなか、

「○○ちゃんがお家のことで気になることを言っていた。大丈夫かな？」「迎えに来ていたお母さん元気がなさそう。何か困っていることがあるのかな？」「お友達をたたいてしまった■■くんにはどんな声かけをしよう？」というように子どもたちやそのご家庭にアンテナをはり、気づきの場になっていることの凄さを感じました。

またひとつひとつの声かけが、子どもたちやお母さんの気持ちを考えてなされていることも随所に感じました。そして、焦らず、じっくり、あたたかく関わり続ける大切さも教えてもらいました。

支援の専門職の場合、**“どんなご家庭か？”“緊急の困りごとはないか？”どんな制度を使うと困りごとが解消するか”**を考えて、できるだけ早く事情を把握して、「問題があれば動く」という考えや関わりになることがあります。でも、子どもたちやご家庭が**「緊急ではないけれど、困りごとがある」**というとき、そういった関わりではきっとうまくいかないのだろうと思います。目の前の子どもやそのご家庭にアンテナをめぐらせ、気づいたことに悩み考え、そっと声かけを続ける。**その先に「繋がり続ける関係」があり、それが子どもやご家庭にとって大きなエンパワーメントになる。**とても大切なことを教えてもらいました。

今回、そんなこども食堂の素敵さを皆さんと共有できる冊子にしたい！いう思いでこの冊子を作りました。運営者の方にこども食堂の素敵さと、エールをお届けできていれば私たちもとても嬉しいです。

今回のプロジェクトにご協力いただいたこども食堂の皆様、子どもたちのために子ども食堂を立ち上げられた皆様、コロナ渦でも尽力されているこども食堂の皆様、資金面でご支援いただいたNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様に心から感謝いたします。

本当にありがとうございました。

プロジェクトメンバー　弁護士
伊藤 由子

2021年3月

協力こども食堂

- バラエティクラブ八王子
- こどもの居場所作り＠府中
- 寺子屋方丈舎
- wakka
- くすのき子ども食堂実行委員会
- こどもプロジェクト
- 秋田たすけあいネットあゆむ
- フードバンク北九州ライフアゲイン
- チャイルドケアセンター
- 石川こども食堂
- 東吉野村こども食堂
- おのみなとこども食堂の会
- ヨリドコピンポン
- よこすかなかながや
- あそびとまなび研究所
- 労協ながの
- おやこ食堂「おかえり」・みんなの食堂「ただいま」
- チアーズ
- すくすく広場
- TSUGAnoわこども食堂
- みんなの食堂＠府中
- ころころ食堂
- dattochiみんなの食堂
- ハッピーコミュニティ食堂
- 放課後キッチン・ごろごろ
- 西東京わいわいクッキング

ヒアリング実施期間：2020年7月～12月

ある日のこども食堂 "ちょっと気になる子"との関わり

2021年3月1日

発行 …… **NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ**
理事長 湯浅誠

〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-20-3 西新宿髙木ビル7階
Tel：03-4213-4295
Email：kodomo@musubie.org
公式ウェブサイト：https://musubie.org

デザイン …… 和田直也
イラスト …… 塩澤亜沙美

プロジェクトメンバー …… 山角直史／伊藤由子／六鹿篤美／湯浅誠

協賛（助成） …… 特定非営利活動法人モバイル・コミュニケーション・ファンド
この冊子は、『ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により作成しました。

©2021むすびえ All rights reserved.

NPO法人 全国こども食堂支援センター

むすびえ

アンケートのお願い

最後までお読みいただき、ありがとうございます。
この冊子をお読みになった皆様に、是非ともアンケートのご回答をお願い致します。
お読みいただいた方お一人につき１回ずつご回答いただけますと幸いです。
いただいた回答は、今後の事業の発展のために活用させていただきます。

アンケートは下記 QRコード読み取りまたはURLからお願い致します。

https://forms.gle/j2mQ3kc7RGBs7H1R6